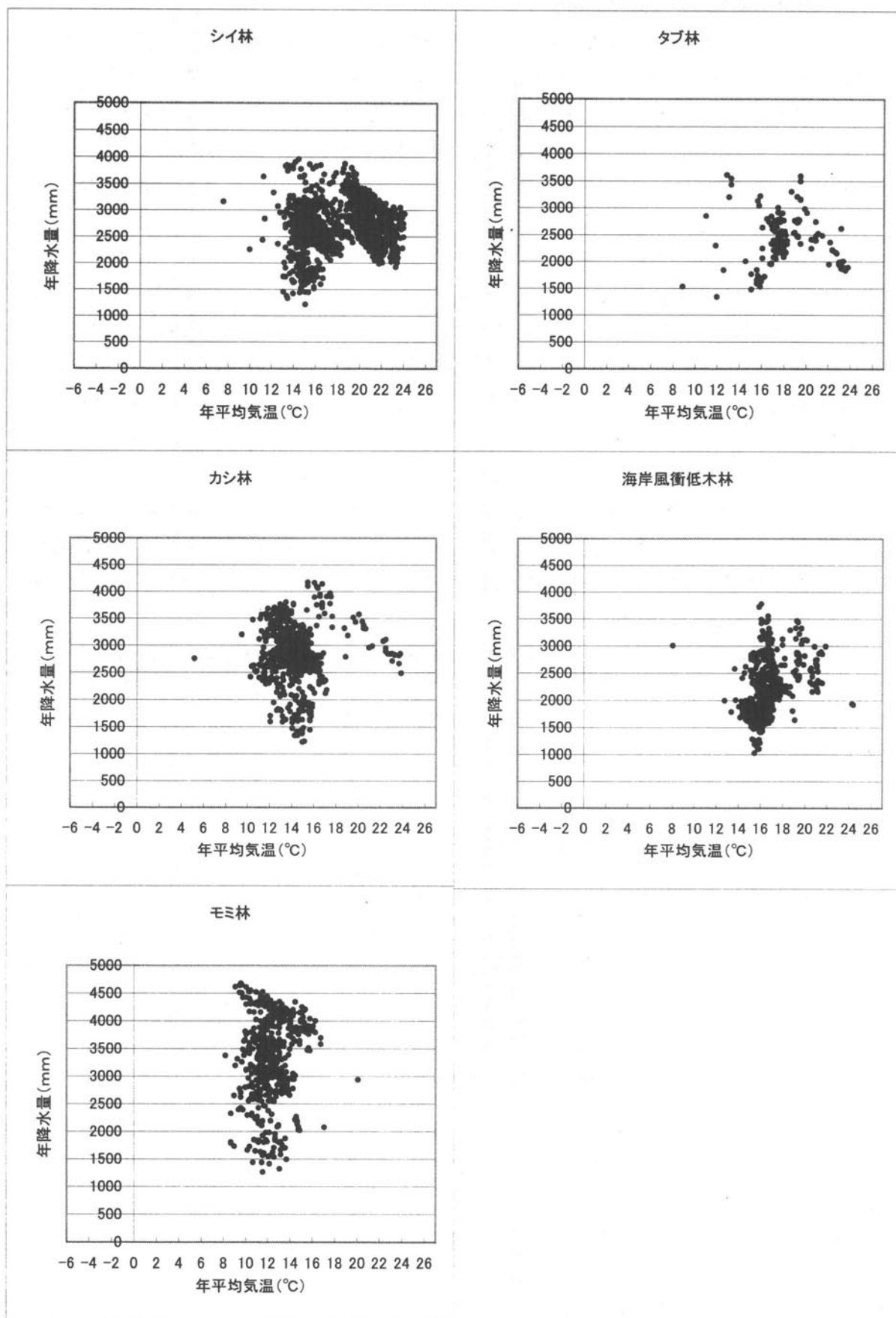


(3) ヤブツバキクラス域の自然植生

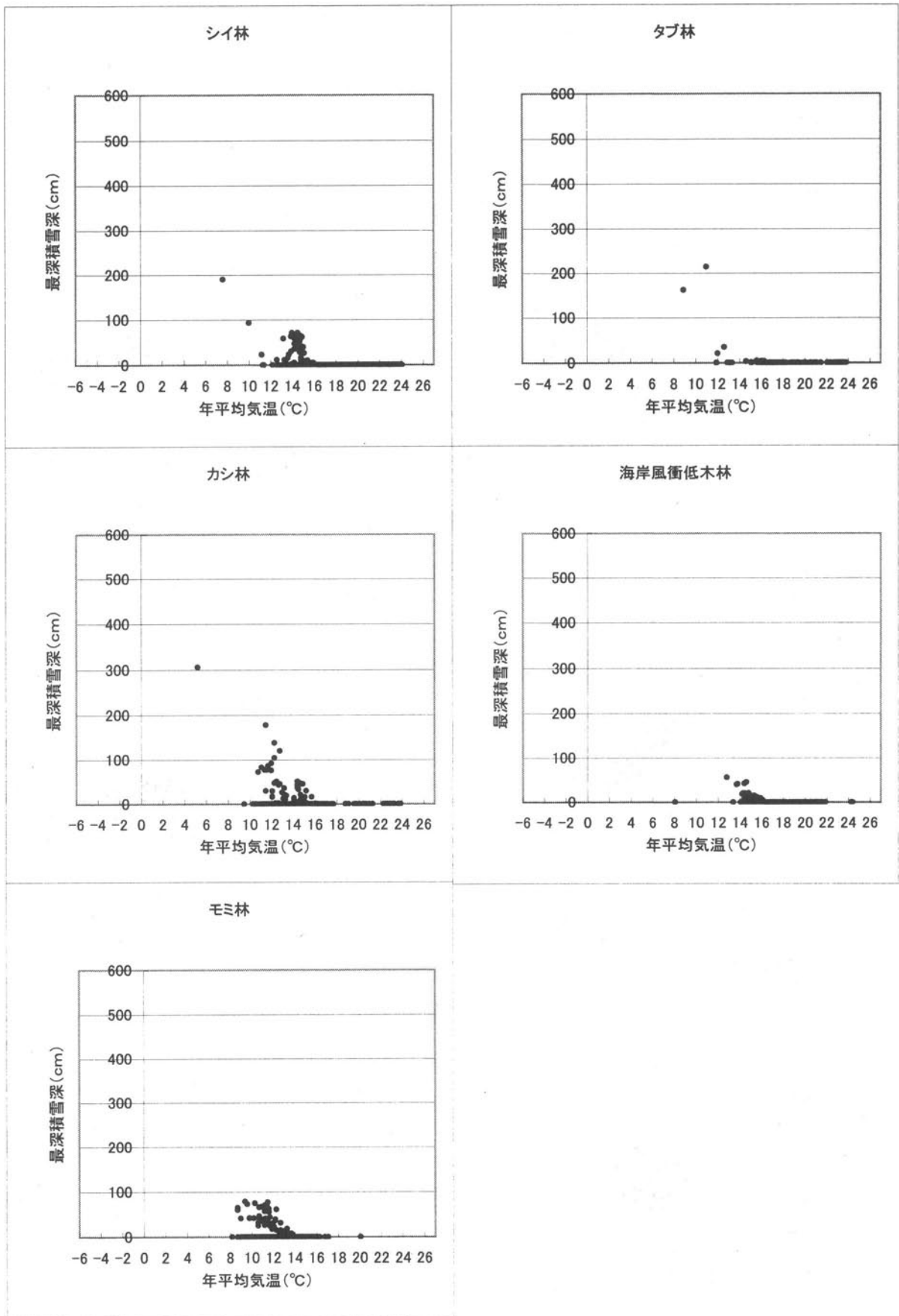
ヤブツバキクラス域の自然植生のうち、照葉樹の自然林としてシイ林、タブ林、カシ林、海岸風衝低木林、また、モミ林の気象要因とのかかわりからみた出現メッシュの状況を図Ⅱ.5.21～図Ⅱ.5.24に示す。これら5つの植生（合計4,135メッシュ）は、ヤブツバキクラス域自然植生全体（5,925メッシュ）の約7割を占めている。しかし、地方別にみると九州・沖縄地方に偏在しているため、ここでは地方別の解析ではなく、全国的な視点から5植生の分布状況の比較を行った。

年平均気温と年降水量との関係を見ると、モミ林は照葉樹の自然林と比較して、年平均気温による制約を受け分布が異なっている状況がわかる。モミ林は照葉樹林と比較して、年平均気温が低い地域に偏在しており、年平均気温16℃以上の地域にはほとんど分布していない。降水量からみると、モミ林、照葉樹の自然林とも約1,300mm以上の地域に分布している。

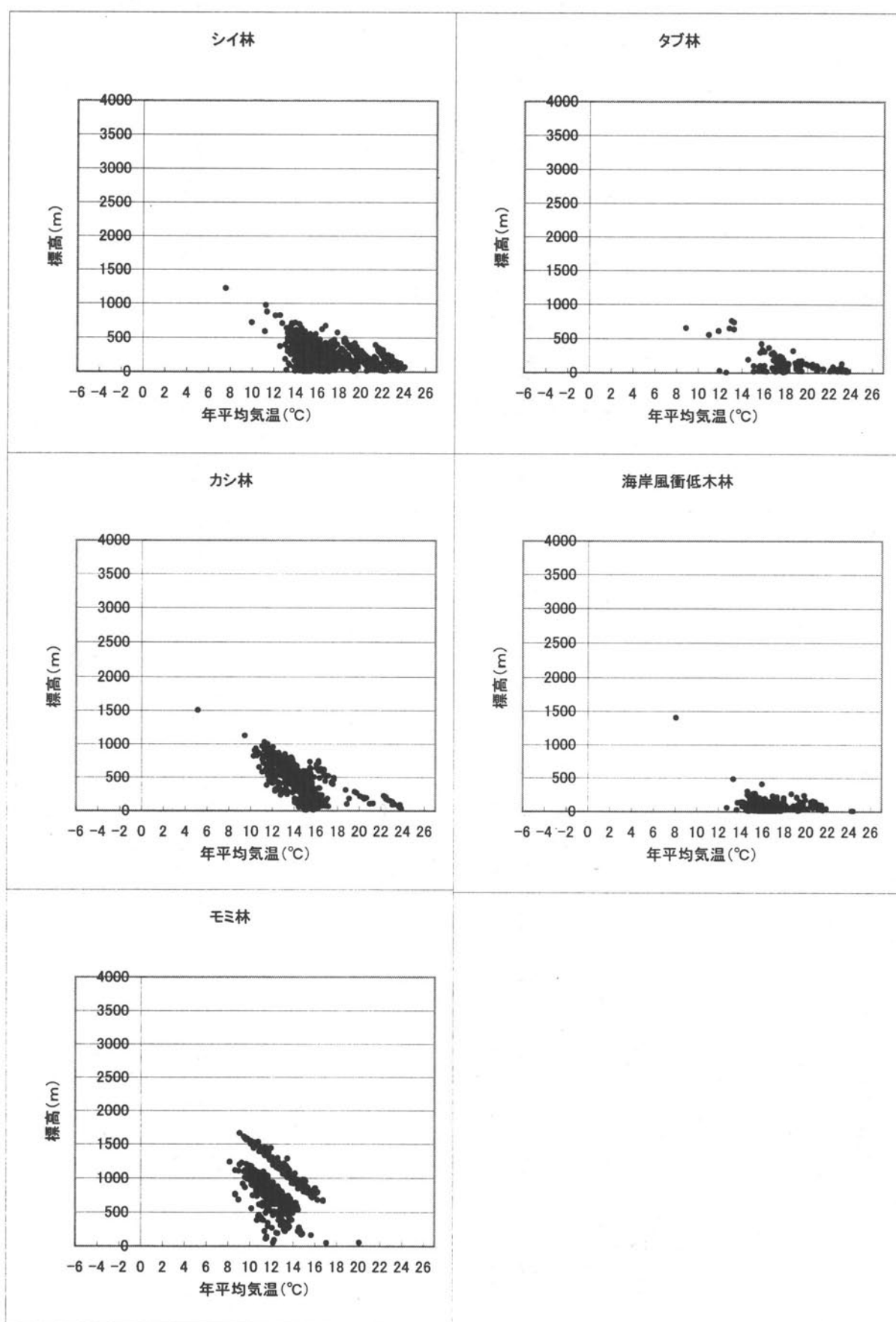
標高とのかかわりからみると、各植生は互いに分布域を重ねつつ、低海拔高域～高海拔高域におよびすみ分けている様子がわかる。最も低海拔域に偏在しているのは、海岸風衝低木林であり、主な分布域は標高500m以下の地域である。次に、タブ林、シイ林、カシ林、モミ林と分布域の標高が高くなっている。タブ林、シイ林は、標高0～500m未満の地域に多く分布しており、カシ林は0～1,000m、モミ林は0～1,500mの地域に広く分布している。



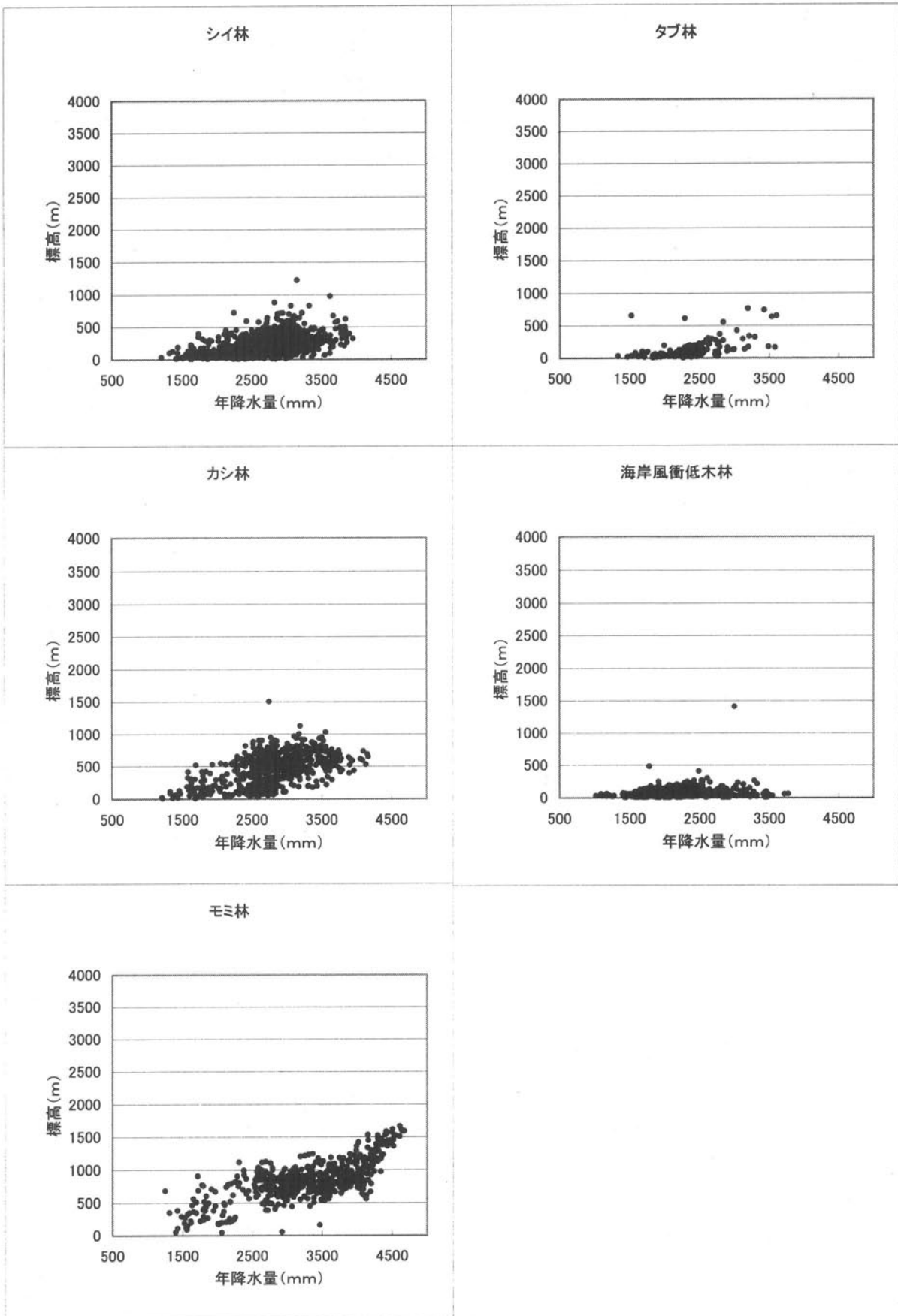
図Ⅱ.5.21 照葉樹林（自然植生）と環境要因（気温、降水量）との関係



図Ⅱ.5.22 照葉樹林（自然植生）と環境要因（気温、最深積雪深）との関係



図Ⅱ.5.23 照葉樹林（自然植生）と環境要因（気温、標高）との関係



図Ⅱ.5.24 照葉樹林（自然植生）と環境要因（降水量、標高）との関係

(4) 代償植生

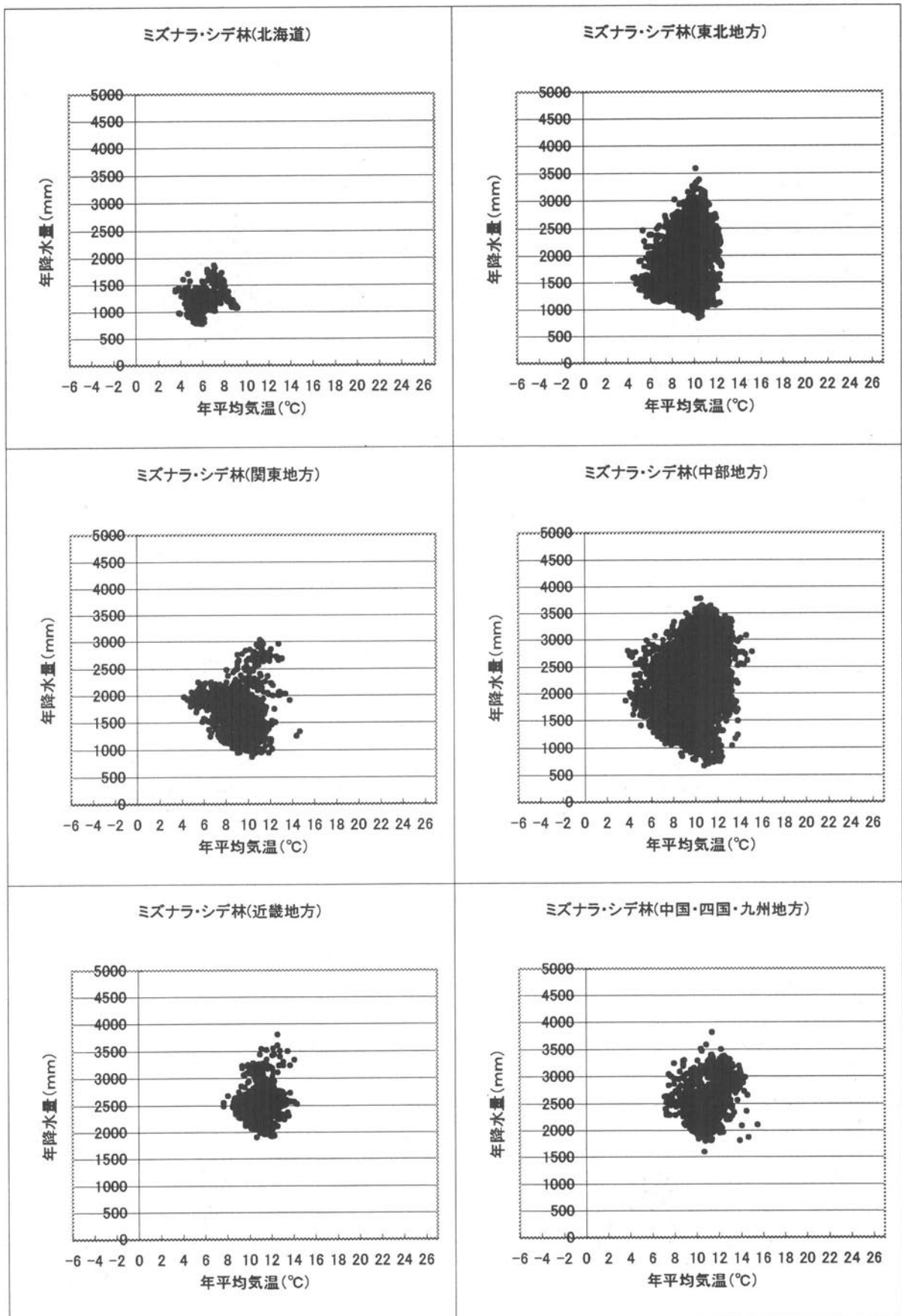
主な代償植生として、ブナ二次林、ミズナラ・シデ林、コナラ林、アカマツ林、シイ・カシ萌芽林の気象条件とのかかわりからみた分布状況を図Ⅱ.5.25～Ⅱ.5.40に示す。

年平均気温、年降水量、最深積雪深、標高とのかかわりからみると、気象要因から見るとブナ二次林とミズナラ・シデ林は類似した分布傾向がみられている。また、アカマツ林とコナラ林は類似の分布傾向がみられている。

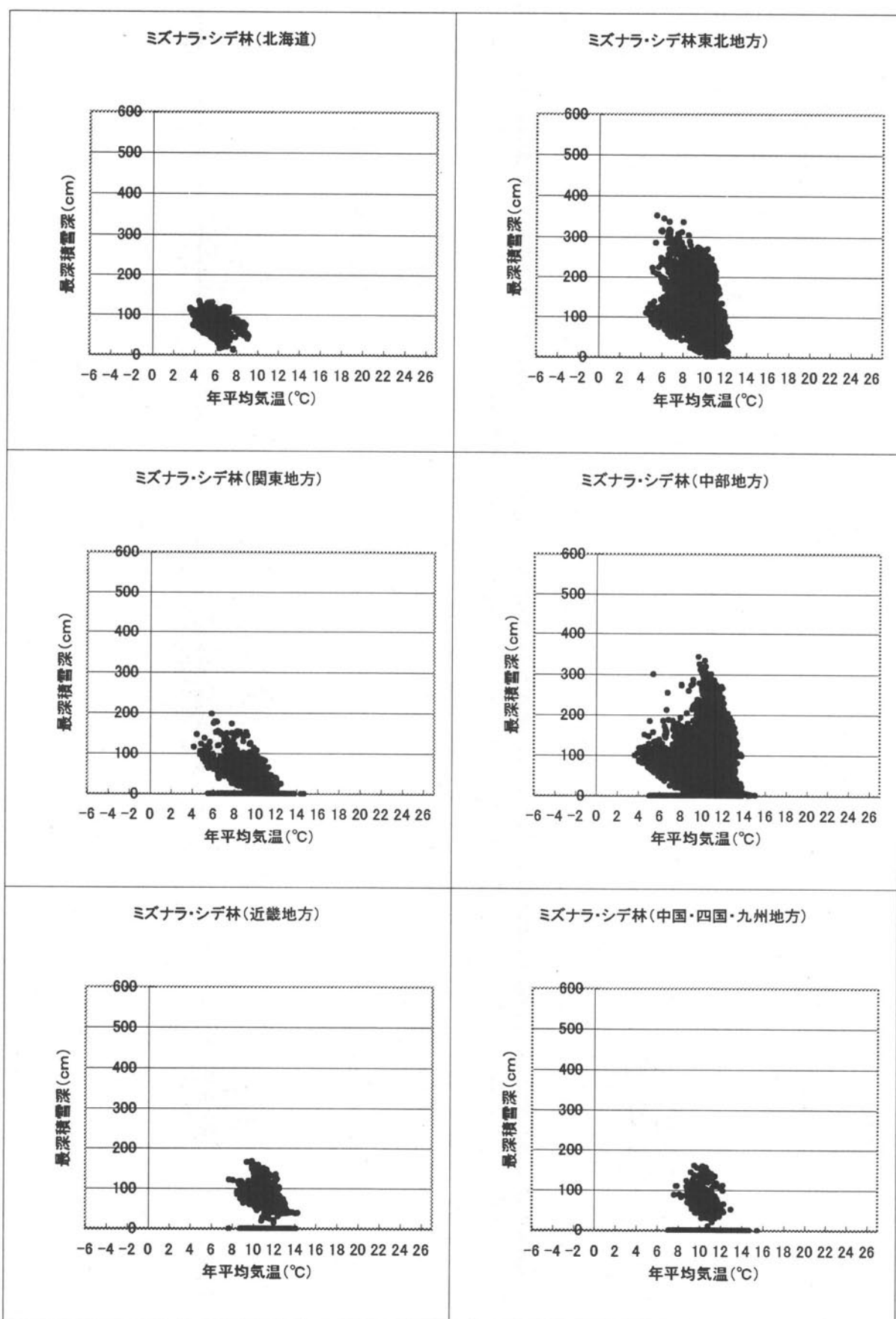
ブナ二次林とミズナラ・シデ林は前述の日本海側のブナ林と比較して、類似した分布傾向がみられているが、ミズナラ・シデ林は、より低海拔高域、より最深積雪深が小さい地域に偏在している。

コナラ林とアカマツ林は、ミズナラ・シデ林と比較して、分布が重なる地域も多い中、より年平均気温が高く最深積雪深が小さい地域に偏在している。地方別にみると、東北地方、関東地方、中部地方では、コナラ林はアカマツ林と比較して、より低海拔高域に分布が偏在している。

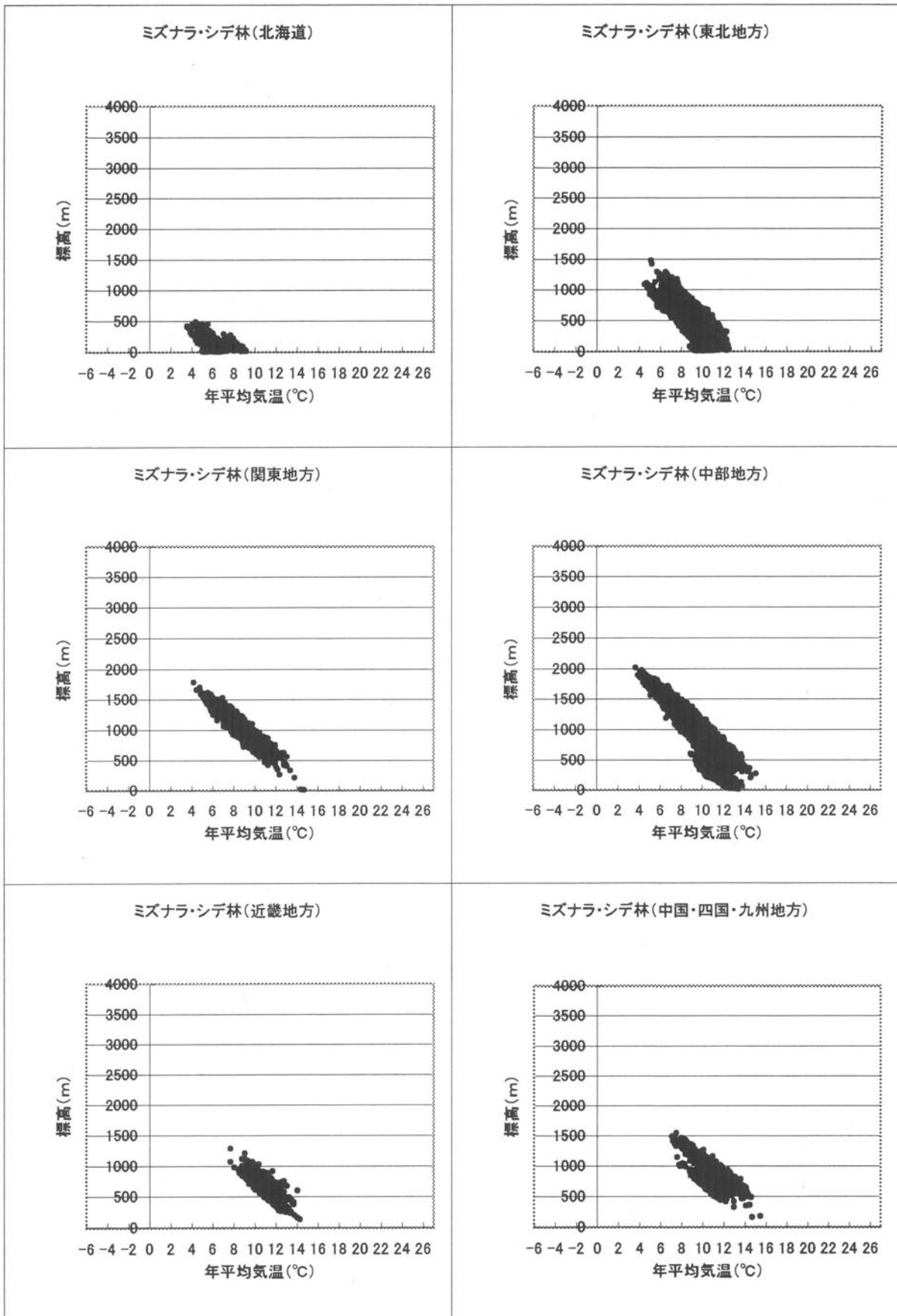
シイ・カシ萌芽林は、年平均気温と降水量からみると、分布がみられる各地方とも、概ね年平均気温 12℃、年降水量 1500mm 以上の地域に分布している。標高についてみると、関東地方、中部地方、中国地方では標高 500m 以下の地域に多くが分布しており、近畿地方、四国地方、九州地方、沖縄地方では、標高 500m 以上の地域でも分布がみられている。



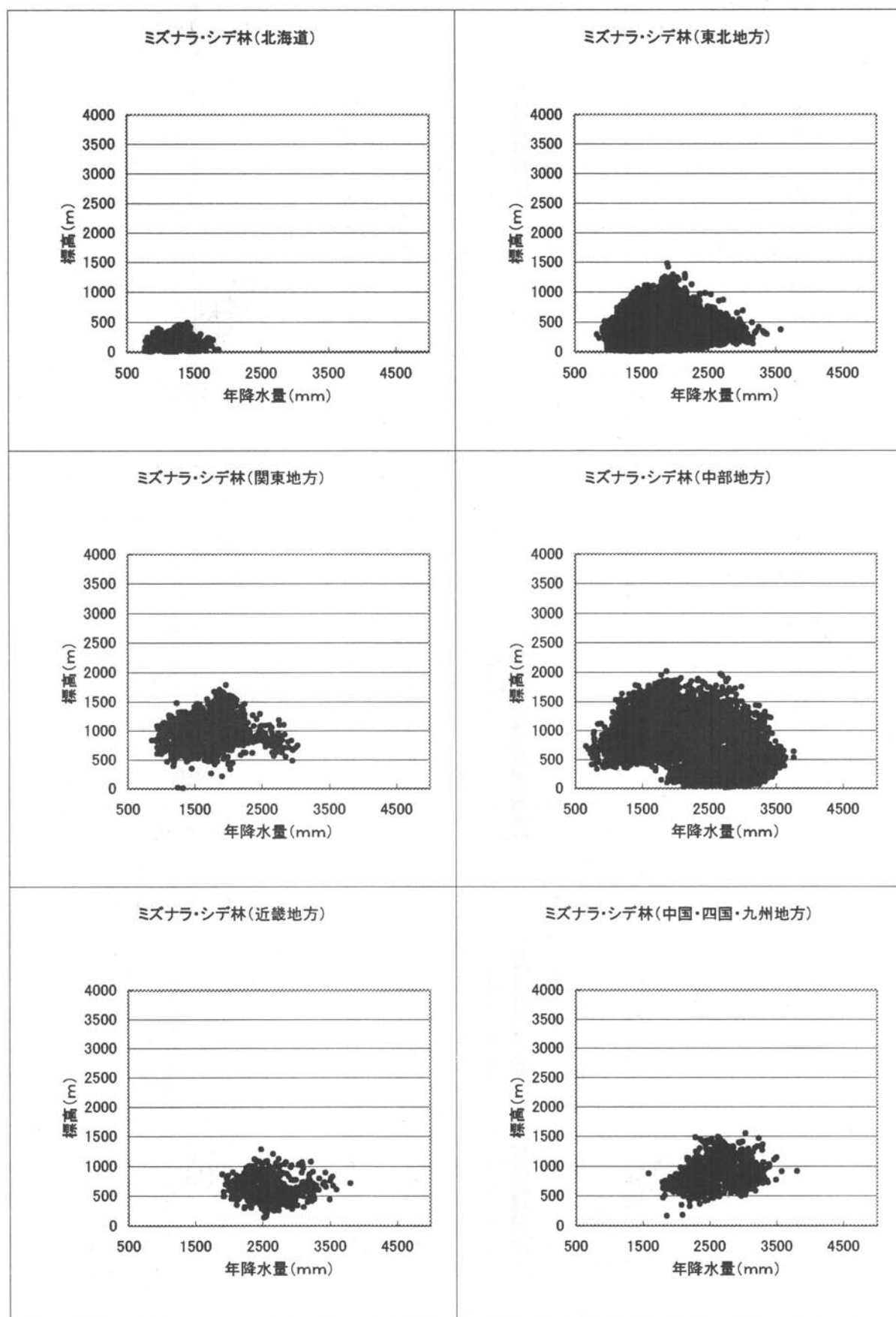
図Ⅱ.5.25 ミズナラ・シデ林と環境要因（気温、降水量）との関係



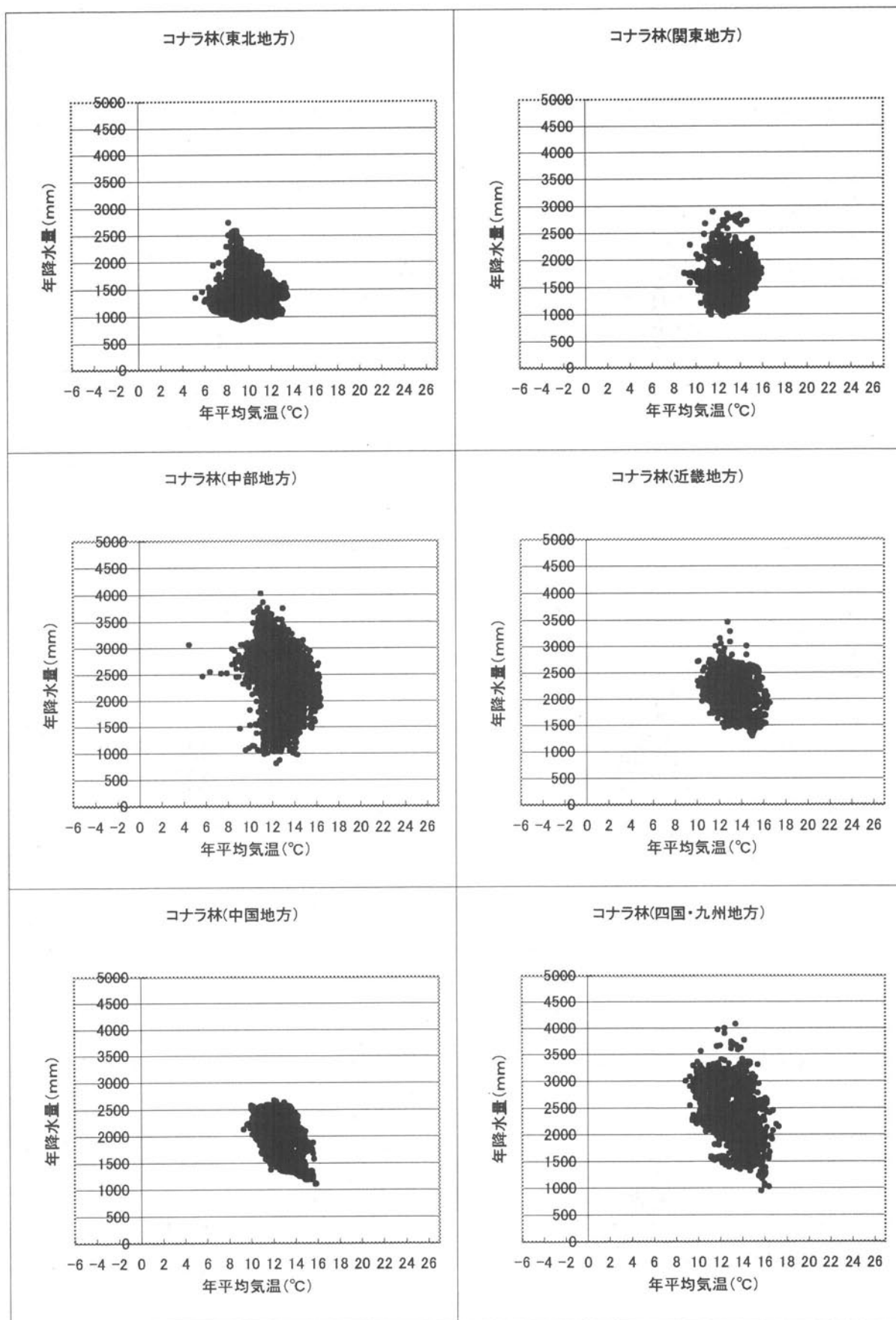
図Ⅱ.5.26 ミズナラ・シデ林と環境要因（気温、最深積雪深）との関係



図Ⅱ.5.27 ミズナラ・シデ林と環境要因（気温、標高）との関係



図Ⅱ.5.28 ミズナラ・シデ林と環境要因（降水量、標高）との関係



図Ⅱ.5.29 コナラ林と環境要因（気温、降水量）との関係